

ニッケイ俳壇

(883)

富重久子 選

セザリオ・ランジェ 井上 人栄

◎乱れ棹すぐ立て直し雁渡る
○突つかれて膨れ威嚇す暮(ひきがえる)
セラードや未広がりに鷺雲

懸命に生きる輝き汗の顔

次々とバラシユート降り鷺雲

◎「雁渡る」といえはず、「かりかりわ
たりおほきなかりはさきにちひきなか
りはあとになかよくわたれ」という童謡

を口づさむが、この句の通り少女の頃はよ
く夕焼け空を植になつたり、かぎになつた

○ミナスで夜になるとミーリョ小屋の周
りに大きな暮が沢山集まつて、おこぼれを

食べている様子を見たことが男壯なものであつ
た。

○虫の間探す一句は夜は更けて
目割菜土もり上げて朝の日に
車椅子の姉を連れ出す菊日和
書を伏せてると眺めば三日月

○虫の間、虫の鳴いている草叢も何も
分からぬよな閑をいうが、そんな虫の
鳴き声を聞きながら、さて一句を詠みたい
と思いながら、中々思つよう詠めない。
そうこうしているうちに寝る時間もとうに
過ぎてしまつたし、何となく面白くないが
諦めて寝につく。

○サンバウロを離れて地方に旅した時の一
句であるうか。この人らしい佳句である。

仕事

サンバウロ

◎虫の間探す一句は夜は更けて
目割菜土もり上げて朝の日に
車椅子の姉を連れ出す菊日和
書を伏せてると眺めば三日月

○虫の間、虫の鳴いている草叢も何も
分からぬよな閑をいうが、そんな虫の
鳴き声を聞きながら、さて一句を詠みたい
と思いながら、中々思つよう詠めない。
そうこうしているうちに寝る時間もとうに
過ぎてしまつたし、何となく面白くないが
諦めて寝につく。

○サンバウロを離れて地方に旅した時の一
句であるうか。この人らしい佳句である。

サンバウロ

◎虫の間探す一句は夜は更けて
目割菜土もり上げて朝の日に
車椅子の姉を連れ出す菊日和
書を伏せてると眺めば三日月

○虫の間、虫の鳴いている草叢も何も
分からぬよな閑をいうが、そんな虫の
鳴き声を聞きながら、さて一句を詠みたい
と思いながら、中々思つよう詠めない。
そうこうしているうちに寝る時間もとうに
過ぎてしまつたし、何となく面白くないが
諦めて寝につく。

○サンバウロを離れて地方に旅した時の一
句であるうか。この人らしい佳句である。

サンバウロ

◎虫の間探す一句は夜は更けて
目割菜土もり上げて朝の日に
車椅子の姉を連れ出す菊日和
書を伏せてると眺めば三日月

○虫の間、虫の鳴いている草叢も何も
分からぬよな閑をいうが、そんな虫の
鳴き声を聞きながら、さて一句を詠みたい
と思いながら、中々思つよう詠めない。
そうこうしているうちに寝る時間もとうに
過ぎてしまつたし、何となく面白くないが
諦めて寝につく。

○サンバウロを離れて地方に旅した時の一
句であるうか。この人らしい佳句である。

サンバウロ

◎虫の間探す一句は夜は更けて
目割菜土もり上げて朝の日に
車椅子の姉を連れ出す菊日和
書を伏せてると眺めば三日月

○虫の間、虫の鳴いている草叢も何も
分からぬよな閑をいうが、そんな虫の
鳴き声を聞きながら、さて一句を詠みたい
と思いながら、中々思つよう詠めない。
そうこうしているうちに寝る時間もとうに
過ぎてしまつたし、何となく面白くないが
諦めて寝につく。

○サンバウロを離れて地方に旅した時の一
句であるうか。この人らしい佳句である。

サンバウロ

◎虫の間探す一句は夜は更けて
目割菜土もり上げて朝の日に
車椅子の姉を連れ出す菊日和
書を伏せてると眺めば三日月

○虫の間、虫の鳴いている草叢も何も
分からぬよな閑をいうが、そんな虫の
鳴き声を聞きながら、さて一句を詠みたい
と思いながら、中々思つよう詠めない。
そうこうしているうちに寝る時間もとうに
過ぎてしまつたし、何となく面白くないが
諦めて寝につく。

○サンバウロを離れて地方に旅した時の一
句であるうか。この人らしい佳句である。

サンバウロ

◎金髪の師にあこがれて夜学生
キャン燃ゆ埠頭に着き移民船
秋彼岸念仏唱ふ伯人船
しいと思った時があつた。金髪が珍しかつ
たからであろう。「終の柄」は、中々穿つた言葉の表現で
居る生徒が、あこがれるのは珍しくない
いい青年が想像され微笑ましく楽しい佳
句である。

が、特に「夜学生」ということになると、
いい青年が想像され微笑ましく楽しい佳
句である。

◎鷺雲漁師ほほえむ今朝の空
訪日果たせぬ悔や鳥渡る
灯火親しきてはならぬ趣味一つ
難民もテロも無き空島渡る
○鷺雲はもう誰でも知つてゐるが、澄
んだ空に鱗状の雲が群れ広がり、この雲が
出ると鷺の大漁といわれるのこう呼ばれて
いる。

○幾許の余生を思ふ星月夜
葵掘る命惜しむに非ねども
賜はりし命を惜しみ髪洗ふ
黒猫に前を過らる受難節
○作者は先日九十二歳になれたが、まだ
蜂鳥の編集部員として無くてはならない人
として、強張つて下さつてある。この句に
あるように余生を思つ日々であるが、私よ
りずっとじつかりしておられる。

○ブライジルにも秋になると南から多くの鳥
が渡つきて、冬を過ごし春に繁殖して子
育てし又帰つていく。何れも大群をなし
て、次から次へと小鳥の大群をみると
ある。街中では今夕見られないが、作者の地方
ではよく観察出来るのである。「終の柄
は風の中」とは、中々穿つた言葉の表現で
ある。立派な珍しい俳句であった。

○金髪の師にあこがれて夜学生
キャン燃ゆ埠頭に着き移民船
秋彼岸念仏唱ふ伯人船
しいと思った時があつた。金髪が珍しかつ
たからであろう。「終の柄」は、中々穿つた言葉の表現で
ある。立派な珍しい俳句であった。

○シャンソンのシヨーに招
キャン燃ゆ埠頭に着き移民船
秋彼岸念仏唱ふ伯人船
しいと思った時があつた。金髪が珍しかつ
たからであろう。「終の柄」は、中々穿つた言葉の表現で
ある。立派な珍しい俳句であった。

○シャンソンのシヨーに招

にっこいしやかい

れんけいきょうか

梅田大使

「日系社会との連携強化する」

リオ五輪で皇族来伯期待へ

婦人部高く評価、日本招聘へ

リオ五輪については、
梅田邦夫駐ブラジル日本国特命全権大使が3月31日に来社し、
強化について説明、「ブラジルが世界有数の親日国となつたのは、
それが世代交代を迎えており、今まで一、二世は何も言わずとも協力してくれたが、若い世代にはこちらから働きかけることが重要」となど意欲的に展望を語った。



梅田大使
遠藤利明・東京五輪担当大臣
安倍晋三首相は再来伯
東京都の外添要一知事、
安全対策では、テロ、
強盗・ジカ熱等の感染症
に重点を置く。伯国でテ
ロ事件はないが「ヨー
ロッパで起こっているこ
とを考えると、神経質に
ならないを得ない」と
日本人選手と観光客の
も。この2月から観光ビ
ザの数次化が実施され
ていると報告した。

県連故郷巡り
北東伯編

歴史の玉手箱 第3回



たまばこ
Maceió



一行が泊まるホテルへ1200CCのハーレーで駆け付けた千田さん

JTBカルモで300人が清掃活動

リベイロン・ピーレスで
全伯虚子忌俳句、21日

リベイロン

